

<問い合わせ先>

九州地方整備局 企画部

技術企画官 堀 勇一郎（内線：3126）

TEL：092-471-6331（代表）、直通：476-3546

平成22年度「手づくり郷土賞」に九州から2件選定！

今般、全国各地からの応募の中から優れた取組が「手づくり郷土賞」として選定され、九州からも2件が選定されましたので、お知らせいたします。

「手づくり郷土賞」は、社会資本と関わりをもつ地域づくりの優れた取組を表彰し、好事例として広く全国に紹介することで、個性的で魅力ある地域づくりに向けた取組が進むことを目的として実施しています。

■平成22年度「手づくり郷土賞」選定結果

	選定数	うち九州
一般部門	22選	2選
大賞部門	3選	0選

■選定された九州の取組

案件名	40年ぶりに復活した縫ノ池湧水の保全と地域づくり
応募団体名	縫ノ池湧水会（佐賀県杵島郡白石町）
案件名	ホタルの里づくり（ホタルの里できらめく☆城河原☆）
応募団体名	城河原地域づくり振興会（熊本県天草市）

なお、1月19日および21日には、それぞれ現地にて認定証伝達式を行い、選定された取組の応募者に対し認定証及び記念品を伝達しましたので、併せてお知らせいたします。

一参考一 国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」ホームページ

(<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/te dukuri/index.html>)

国土交通省総合政策局・大臣官房の「手づくり郷土賞」記者発表資料

(http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo03_hh_000024.html)

平成22年度 手づくり郷土賞

目的

全国各地において、その地域固有の自然や歴史、伝統、文化や地場産業等を貴重な資源として再認識し積極的に利活用した、魅力ある地域づくりの成功例が多く見受けられます。

このような地域の魅力や個性を創出している、良質な社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動を一体の成果として発掘・評価し、「手づくり郷土賞」として表彰することにより、好事例を広く全国に紹介、个性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が進むことを目指しています。

部門

手づくり郷土賞(一般部門)

手づくり郷土賞(大賞部門)

募集対象

地域の魅力を創出している、社会資本及びそれと関わりがある優れた地域活動が一体となった成果

これまでに「手づくり郷土賞」を受賞した社会資本又は社会資本と関わりのある活動を含む成果

選定のポイント

手づくり郷土賞の選考は、以下の視点に着目して行われます。

①社会資本の整備・維持管理・利活用にあたっての創意・工夫

(地域特性を踏まえた整備・維持管理上の工夫、地域資源としての育成・活用等)

②地域活動における創意・工夫、取組の独創性

(新しい発想、住民自ら考え工夫を凝らした取組等)

③地域づくりへの成果及び波及効果

(地域への思いに富んだ取組、地域づくりの枠を越えた効果等)

④今後の活動の継続性・発展性

(住民が長く活動が続けられる仕組み、周囲を広く巻き込む工夫等)

⑤他の参考となるような先進性・先導性

⑥その他(上記以外の特に優れた内容)

①社会資本の整備・維持管理・利活用にあたっての創意・工夫

(地域特性を踏まえた整備・維持管理上の工夫、地域資源としての育成・活用等)

②地域活動における創意・工夫、取組の独創性

(新しい発想、住民自ら考え工夫を凝らした取組等)

③地域づくりへの成果及び波及効果

(地域への思いに富んだ取組、地域づくりの枠を越えた効果等)

④今後の活動の継続性・発展性

(住民が長く活動が続けられる仕組み、周囲を広く巻き込む工夫等)

⑤他の参考となるような先進性・先導性

⑥その他(上記以外の特に優れた内容)

⑦社会資本の地域への定着状況

(地域のシンボルとして広く認識されている、多くの地域住民が日常的に活用等)

⑧活動の継続状況

(規模を広げながら着実に継続している等)

⑨活動の発展状況

(新たな取組を創出している、他地域へ波及している等)

応募団体

社会資本を管理する地方公共団体(都道府県、市区町村)、又は社会資本を有効活用し地域づくり等に取り組む活動団体が、単体もしくは共同で応募することができます。

選定委員会

委員長： 西村 幸夫 東京大学先端科学技術研究センター 教授
 大村 哲夫 (財)港湾空間高度化環境研究センター 理事長
 金安 岩男 慶應義塾大学環境情報学部 教授
 田村 美幸 公共の色彩を考える会 名誉会長
 藤吉 洋一郎 大妻女子大学文学部 教授
 藤原 まり子 博報堂生活総合研究所 客員研究員
 北村 隆志 国土交通省総合政策局長

※ 詳細については、国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」ホームページをご覧ください。

(<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/teдукuri/index.html>)

ぬいのいけ

40年ぶりに復活した縫ノ池湧水の保全と地域づくり

（佐賀県・白石町）

佐賀県白石町の縫ノ池は、昭和30年頃からの地下水汲み上げで涸れていましたが、佐賀導水事業により、水道水を地下水から河川水へ転換したところ、湧水が復活し、40年ぶりにその姿を取り戻しました。これを機に、平成14年に「縫ノ池湧水会」（会員260名）を発足し、清掃活動はもとより、夏のキャンドルイベント、釣り大会、茶会等のイベント、水辺の体験学習を地域住民が中心となり年間通して開催しています。子供から大人まで参加することで、地域のコミュニティの形成、世代間コミュニケーションの活性化に繋がっています。県内の他の活動団体と意見交換を行い、活動の参考にするなど、積極的な活動を展開しています。



△ 会員らによる清掃活動の様子



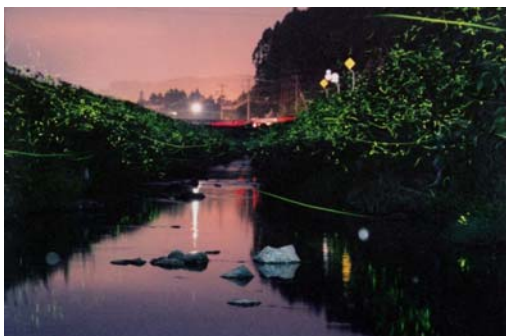
△ 夏季の釣り大会の様子

じょうがわら

ホタルの里づくり（ホタルの里できらめく☆城河原☆）

（熊本県・天草市）

天草市城河原地区を流れる内野川に平成12年頃からホタルが見られるようになり、ホタルが末永く棲めるような環境を創り、地域の活性化につなげていこうと、平成14年に「城河原地域づくり振興会（会員130名）」を設立し活動しています。中でもホタルフェスタは、平成14年の開催以降、地域最大のイベントとして定着しており、今では観光客が2千人を超えるほどになりました。また、地元小学校と連携し、小学生が天草空港を利用して福岡市の小児病棟にホタルを届ける「ホタル交流便」を実施しています。住民総参加をテーマに、環境活動から地域活動まで、地域住民が一体となって取り組んでおり、地域の活性化に大きく寄与しています。



△ 夕闇を乱舞するホタルの様子



△ ホタル交流便で届けられたホタルに見入る子どもたち